

NEWS LETTER 遊文通信

2016年5月発行

60

前号では出版の現況を簡単に述べました。
今回はユニウスのサービスと
新刊の具体例から、
意外にハードルの低い
自費出版への
ひとつとびをご案内します。



♪♪♪
飛んでみよう！
飛んで行け！

「あさが来た」主題歌「365日の紙飛行機」より

自費出版あれこれ その2

ユニウスのこんなサービス

- コストダウンの工夫……手間暇かかる組版は効率化が肝。マクロやXMLを駆使した自動組版、PDFの活用など、制作会社遊文舎と一体化した出版社だからこそできるサービスの色々を提案し、コスト低減に努めます。
- 造本=デザインの技……カバー・表紙のビジュアルは本の生命線。高品質のデザイン力と本づくりの経験を踏まえた編集者のアドバイスで、お互い納得できるまでダメ出しのうえ進めます。撮影スタジオも完備しています。
- まずはデジタルプリントで少部数……300部までならオフセット印刷よりデジタルのほうが安い。対象により描写力の違いもあるが、少部数でスタートするのが無難。
- ISBN取得は無料……書店へ流通させるためには、ISBNやバーコード取得が不可欠だが、ユニウスでは無料でサービス。
- 取次店からアマゾンへ登録……ネット通販加速の時代、自動的にアマゾンへ登録。レビューを友人に頼んだり、自動努力も楽しくやしましょう。
- 日本自費出版文化賞……ユニウスの判断で作品を応募します。著名な審査員の選考にチャレンジすることができます。

『萩原広道（上・下）』

菊判／上下巻1,500頁／200部／
ハードカバー／12,000円

著者は高校教員の傍ら幕末期の悲運の文人に憑りつかれ、20年来研究を続けてきた。広道の伝記はまだ詳らかにされていないので出版を勧めたが、「出版など気恥ずかしい。私家版でよい」との含羞の人らしい返事。自費出版と決断されたのは「せっかく活字にするのなら、一人でも多くの人に読んでもらわないと



本に対して失礼や。思い切って飛んでみたらどうですか」の一言だと思う。結果、思わぬ研究グループとの繋がりも生まれ、講師に招かれたり活躍の場が広がった。

『希望—2016年の自己記録』

A5版／40頁／100部／
無線綴じ／1,000円

著者ご夫妻は詩とイラストを共作し、ユニウス刊の知人の詩集を見て来社。本にしたいが出版には相当の費用がかかるだろうから、50部の私家版でいいとのこと。ISBN取得して流通に回し、100部で8万円と見積もると、驚いた様子で即決された。本づくりのことは全くの素人なので、扉・目次・奥付の付物はユニウスの編集者が原稿作り。なによりも大層喜んでくださったのが私たちの励みとなった。



『マレーシア語学習辞典』

A5判／900頁／600冊／
ハードカバー／5,000円

著者は予備校の英語教師を定年退職後、マレーシア語に興味を抱き、独学で学ぶ傍ら単語をワード入力、それが辞書となった。初心者用のしかも日々の生活に密着した辞書は見当たらないので、出版に挑戦してみたいと相談を受けた。日常生活目線がよかったのか、ぼつぼつ売れて改定版、増補版と3回も版を重ね、次は2020年東京オリンピック目指し、2000頁の本格的辞書を作ると意気軒高な日々である。



大手出版社とはひと味違うユニウスの自費出版ですが、あなたの可能性は渺々と広がります。ぜひトライしてみてください。

(株式会社ユニウス 三宅由美子)

スタッフ趣味の スノーボード

～営業推進 宮下真衣編

季節が真逆の話題で恐縮です。今回は私の10年来の趣味、「スノーボード」のご紹介です。

スノーボードは一般的にスキーよりも危険なスポーツと言われています。スキーと違ってストックも持たず、両足が固定されていて体重移動と足の踏ん張りのみでブレーキをかけるからです。友人の中には手首や肋骨を骨折した人もいました。よく無傷で続いているものです。

好きで10年続けてはいますが、スノーボードで想像されるようなクルクル回ったり、飛んだり跳ねたりは一切できません。ただひたすらに滑走するのみです。何が楽しいの？とよく言われます。それでは私流の楽しみ方をご紹介します。

夜中のサービスエリア

初っ端からスノボじゃないじゃないか、という声が聞こえてきそうです。でも夜中のSAの雰囲気が好きな人、意外に多いのではないのでしょうか？ ※夜出発の到着で遊んでます。

ガラガラの駐車場、煌々と光る道路情報掲示板。缶コーヒーを飲みながら、渋滞やチェーン規制のチェックをします。少し建物から離れれば夜景を見下ろせたりしますし、目指すは田舎の雪山なので大概星がキレイです。



晴れると暑いくらいです

雪の華



なかなかの腕前…!?

民宿

ほんとにスノボしに行ってるのかとツッコミを入れられそうです。でも宿は本当に大事ですよ！ ゲレンデから近くて、安くて、キレイなところ。特にお風呂！ 真冬に水遊びしてるようなものなので、お風呂だけは譲れません。ゲレンデ近くの温泉でもいいのですが、1シーズンで何度も行くなら少しでも節約したいところです。じゃらん等のロコミは要チェックです。

頂上からの景色

ようやくゲレンデです。お待たせしました。

頂上からの絶景、リフトに乗っている時も周りの木々には雪の華。真っ青な空と雪山のコントラストは間違いなくテンションが上がります。

定番カツカレー

ゲレンデランチ

定番のカレーはもちろん、ロコモコ丼やオムライス、ご当地料理等々…後半戦に向けてエネルギーを補給します。迷ったらカレーです。



甘辛鶏丼

滑走!!

ある程度ターンができて、滑れるようになれば滑ってるだけで楽しいです。うまくターンできるだけで達成感があるからかも知れません。「できるようになった!」という感覚が大人になってから少なくなったから余計ですね。最初のうちは転んでも楽しかったです。大人になってそんなに転ぶことがないからでしょうか。

本来のスノボの楽しみ方がほとんどないご紹介になりましたが、滑ることと同じくらいその周辺の雰囲気に魅せられている、ということかもしれません。今年は雪が少なくて残念でした。来シーズンに期待です。

● 編集後記 ●

2回にわたってユニウスの紹介をさせて頂いた。思えば瀬祭と2人で出版社を立ちあげて早や50年。当時の関西の情報は質・量とも全国を先駆けるものであったが、今や東京に一極集中。しかしネット通販による流通の変化などを見ていると、またまた地方文化の復権の時代ではあるまいかと、楽しみにしている。

(遊民)